



温帯気候のもと保管されている資料
(東北福祉大学資料館 展示室)



トラックで運び込まれた資料を収蔵室へ

旧牡鹿町史編纂資料である文書、図面、写真など 298 件が被災し、東北福祉大学芥川町史編纂部で一時的に保管されています。移送後に虫害とカビへの対策のためガス燻蒸を 48 時間行い、庫内全体の殺虫・殺菌・殺カビが確認されました。現在、空調機で温度 18℃、湿度 55% に保ち、保存環境をよりよい状態に整えています。

石巻市
牡鹿町史
編纂室

保管環境対策

被災資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理



天井裏り抜け被害の被害写真

おしかホエールランドには、クジラの骨格標本などが展示されていました。建物は高さ約 8m の津波により 2 階以上まで浸水し、1 階展示室は大量の瓦礫が堆積し、資料の大部分が流出しました。しかし、天井から吊り下げていたクジラ骨格標本や 2 階展示室の資料は、幸いなことに小さな破損はありましたが、無事救出することができました。

石巻市
おしかホエール
ランド

国と企業の支援

被災資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理



クリーニング作業には、18 大学 456 名以上の
ボランティアが参加 (東北福祉大学)

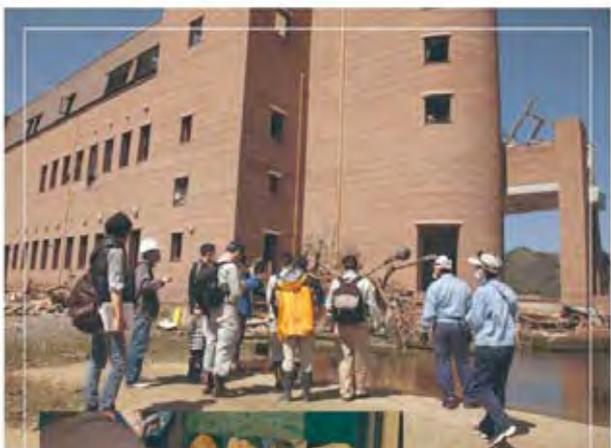


学生によるボランティア活動の様子
被災した民俗・考古・地学資料は東北学院大学博物館が一時的に保管し、学生が主体となってクリーニングを行いました。また後世の災害に備え、資料の状態・経過を「カルテ」、作業全体の流れを「日録」に記録しています。2012 年夏には資料の一部を現地で開催し、学生が現場から聞き書きを行いました。今後は資料館としての役割を目指します。

石巻市
鮎川取蔵庫

連携と協力

被災資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理



建物損壊は津波による被害
浸水被害により発生している。



展示ケースに保管していた東海漁りりのヘドロの中に標本を回収し、1・2 階には町の自然、鮎川の歴史や暮らしを学べる化石標本などが展示されていますが、津波は 3 階まで浸し、1 階には量産漁りりのヘドロや瓦礫が堆積し、2 階展示資料の多くは流出しました。レスキュー活動により、ヘドロの中から化石標本 50 点を回収しましたが、その他は残念ながら腐蝕が激しく、回収を断念しました。資料は洗浄後も腐蝕が残り、今後の処置を検討しています。

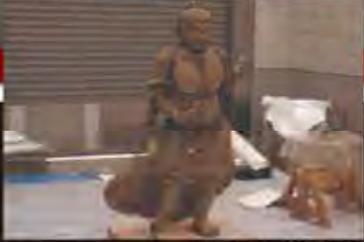
女川町
マリンバル
女川

自然史資料

被災資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理
資料の調査・整理



被災された長沙門天像。柱間の欄干もまだ残っていない。



高島屋跡地、組み立てられた長沙門天像。

津波で海水に浸かり、バラバラになりながらも救出された鎌倉時代の長沙門天像です。財団法人美術振興協会管理所の方々が、ボランティアで像内部の大量の砂や、表面に付着した汚れを除去した後、組み立てを行いました。今年2月に経過観察を行い、大きな変化のないことが確かめられています。

東松島市
海見神社
長沙門天立像

地域の信仰を護る

財団法人美術振興協会
東松島市美術振興協会
長沙門天立像
長沙門天立像
長沙門天立像



重要資料の保存作業



被災後の収蔵庫。柱上には津波が天井まで入った跡跡がみえる。

野蒜文化財収蔵庫には、震災直後を中心に市内遺跡から出土した考古資料（整理用コンテナ約800箱）や陶器類、民俗資料等が収蔵されていました。東松島市では、文化財レスキューによって回収された資料すべての洗浄を終え、現在は資料の公開活用に向けて、再整理と修復・復元作業を進めています。

東松島市
野蒜文化財
収蔵庫

埋蔵文化財

野蒜文化財収蔵庫
野蒜文化財収蔵庫
野蒜文化財収蔵庫
野蒜文化財収蔵庫
野蒜文化財収蔵庫



2階廊下震災被災状況



震災をきっかけに大規模な発掘調査の発覚

津波は層を越え高さ15mに達しましたが、幸いにも展示物の多くは損失を免れ、数回のレスキュー活動により、魚化石、アンモナイト化石標本などの古生物資料、土器、石鏡などの考古資料、船や漁具の民俗資料などが多数回収されました。現在、大型魚竜標本は、林原自然科学博物館による修復作業をへて仙台市科学館に展示。残りの古生物標本は東北大学に展示保管されています。

南三陸町
歌津魚竜館

自然史資料

財団法人美術振興協会
東北大学
東北大学
東北大学
東北大学
東北大学



震災（重要文化財）の修復保存作業（東北歴史博物館）



収蔵庫に運び込まれた祭具

神社の祭具庫が地震によって被害を受けたため、県の重要文化財や県指定文化財である祭具約140点をレスキューしました。その後、東北歴史博物館へ移送し、1点ずつ状態確認を行いました。ちなみに震災前からは東北歴史博物館の総合展示室で展示されている祭具は、都賀神社からお借りしていたもので、これらの仲間です。

名取市
熊野那智神社
懸仏

重要文化財

財団法人美術振興協会
東北歴史博物館
東北歴史博物館
東北歴史博物館
東北歴史博物館



被災資料のレスキュー活動



運び出された被災資料

真理町沿岸部の荒浜地区では、巨大地震により江戸時代から明治時代に築えた旧家の資料が被災しました。これらのレスキュー活動には宮城県歴史資料保存ネットワークや、その他多くのボランティアが参加しました。また、レスキュー資料の保管については近隣の角田市の協力により、現在、資料の一部を市の施設で一時的に保管しています。

眞理町
江戸家・
武者家資料

被災資料の調査
 真理町沿岸部の荒浜地区では、巨大地震により江戸時代から明治時代に築えた旧家の資料が被災しました。これらのレスキュー活動には宮城県歴史資料保存ネットワークや、その他多くのボランティアが参加しました。また、レスキュー資料の保管については近隣の角田市の協力により、現在、資料の一部を市の施設で一時的に保管しています。

近隣自治体の協力



保存管理方法の検討。巻物はなにも、傷みやすい物。（東北歴史博物館）



江戸時代、巻物で納めたお経をやり取りしている。

畳敷された障紙に金泥で記された大般若経で、平常寺にある同様のお経と仲間になるものです。海水で水漬しており、紙の厚さは0.7mm前後と薄いため、慎重に取扱います。海水が蒸発にどんな影響を及ぼすのか、存続に向け、私たちも未知の問題に直面しています。

南三陸町
荒澤神社
大般若経

被災資料の調査
 南三陸町荒澤神社の大般若経が被災しました。このお経は、江戸時代から明治時代に築えた旧家の資料が被災しました。これらのレスキュー活動には宮城県歴史資料保存ネットワークや、その他多くのボランティアが参加しました。また、レスキュー資料の保管については近隣の角田市の協力により、現在、資料の一部を市の施設で一時的に保管しています。

未知なる問題



被災家の瓦葺き屋根（宮城県庁・国立歴史民俗博物館）



瓦葺きの屋根内側



レスキュー活動



被災家の瓦葺き屋根

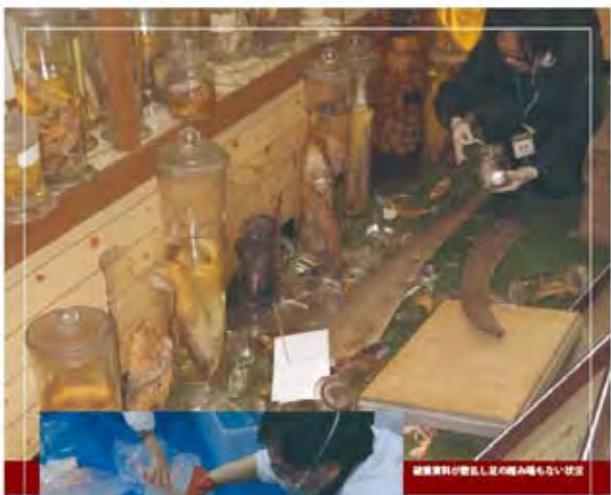


気仙沼市
尾形家住宅
岩井崎プロムナード
センター他

被災した岩井崎プロムナードセンター
 尾形家住宅は江戸時代後期に建てられた民家で、津波で流され崩壊だけが残りしました。国立歴史民俗博物館や学生の全面協力のもと、生活用具や瓦具、古文書などを救出し、海とともに生きる気仙沼の歴史や豊かな生活文化を伝えるための作業が続いています。また、岩井崎プロムナードセンターやエースポートも巨大地震により全壊しましたが、残された瓦片や土質資料を救出しました。

被災資料の調査
 尾形家住宅は江戸時代後期に建てられた民家で、津波で流され崩壊だけが残りしました。国立歴史民俗博物館や学生の全面協力のもと、生活用具や瓦具、古文書などを救出し、海とともに生きる気仙沼の歴史や豊かな生活文化を伝えるための作業が続いています。また、岩井崎プロムナードセンターやエースポートも巨大地震により全壊しましたが、残された瓦片や土質資料を救出しました。

被災した古民家



被災資料が湿らした時の様子もいろいろ



壊れた壁紙から取り出したイロロの巻物

地震により最大多数の瓦葺き屋根や道具などの資料が落下し、破損しました。被害状況を調査した後、救援委員会を通じて県外へ協力を依頼したところ、日本博物館協会に加盟する全国の博物館や新潟資料ネットなど大勢の方々に協力をいただいてレスキュー作業が行われ、市内の旧月立中学校や仙台市科学館に資料が移送されました。

気仙沼市
唐桑漁村
センター

被災資料の調査
 唐桑漁村センターの資料が被災しました。このお経は、江戸時代から明治時代に築えた旧家の資料が被災しました。これらのレスキュー活動には宮城県歴史資料保存ネットワークや、その他多くのボランティアが参加しました。また、レスキュー資料の保管については近隣の角田市の協力により、現在、資料の一部を市の施設で一時的に保管しています。

広域連携

遺り込まれた熊の具足
徳川幕府期の土物熊
徳川幕府期の土物熊
熊の具足と基礎修復作業
遺物の整理と修復作業
遺物の整理と修復作業

東京文化財研究所は、文化財レスキュー事業によって救出された具足一組をお預かりし、保存修復作業を実施しました。具足は、漆・金葉・皮革・紙・漆製品を用いた総合工芸品です。津波による汚水に浸かり、3か月以上経過して救出されたため、腐やカビが発生し、漆の剥離が進行して、保存処置の難しい状態になっていました。

個人所蔵
気仙沼市
当世具足
保存修復

岩沼市
安久津家
森家資料館
他
応急処置を知る

岩沼市では、被害を受けた家屋や蔵の解体に先立ち、残された文化財のレスキュー活動を実施しました。資料はふるさと展示室に搬入され、現在は水漬資料の腐害と洗浄クリーニング作業を進めています。また、市で保管している古書籍が津波で被災したため、紙修復の専門家を招いた応急処置ワークショップを開催しました。

村田町
大沼家
森家資料館
他
まちの博物館の役割

村田町では村田商人ヤマシヨウ記念館（旧大沼正七家）など、商家7軒と旧旅館1軒のレスキュー活動を実施しました。レスキューした資料は紅花などの商売に関する古文書、江戸時代の黄紙類、昭和30年代の石版広告など多岐にわたり、計6,882点を救出しました。これらの資料は所有者の御好意により、村田町に寄贈されました。

これからの活動

『救え！ 熊の足一つなぐれ！ MIYAGI 』をご愛読いただきましてありがとうございました。今回、レスキューした資料には、津波という、これまでに例のない被害を受けた資料が数多くあり、どのように取り扱えばいいのか、まさに試行錯誤の中で作業を進めてきました。今回のパネル展も、熊々の活動の一部を紹介したものでありますが、その写真一枚一枚には熊々の痛みや不幸も、もしかしたら触れられているかもしれません。届かなかったのかかったのか…。震災、そしてレスキュー活動開始から一年半以上が経過したことになります。

これまでは

- ・被災文化財等の救出、保管
- ・保管資料の管理
- ・保管施設の環境改善と環境向上への技術的支援

が活動の中心でした。しかし、今後はこちらに加え、

- ・修復方法の調査、研究
- ・資料修復への支援
- ・津波にむけた被災地、所有者の復旧支援への協力

といった内容が、活動の中心になっていくことになります。そして、これらの作業が進むにつれ、様々な問題や課題も浮き彫りになってきており、日々、真摯に対応していかなければなりません。

新たな一歩へ、文化財レスキュー活動はこれからも続きます。宝蔵館員文化財等保全連絡会には、被災地域の「熊の証」である文化、歴史をまもるといふ使命を委ねられ、震災前、あるいはそれ以上を目指した文化財復旧へ向け、様々なご意見を聞かせていただきたいと思います。今後とも皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。